

# トウモロコシ

やさいの里営農センター 営農指導担当 大場 湧人



## 農作業

# テクニカルダイアリー



# 越冬キュウリ

グリーンプラザ第一集出荷センター 営農指導員 鈴木 広大

**播種**  
 早めにマルチを展張し、地温・土壌水分を保持しましょう。播種は地温13℃以上が確保され、播種後3〜5日間好天が続くときがベストタイミングです。日照時間が少なく、発芽までの日数が長くなると腐敗の原因になります。

**畑の準備**  
 元肥は土壌診断結果に基づき、生育後半まで肥料切れしないような施肥設計をしましょう。肥料切れは穂重に影響しやすく、生理障害の先端不稔や充実(着粒)不良の発生リスクも高まります。堆肥や石灰類などの改良資材は、播種の1カ月前に施用しておきましょう。

**追肥**  
 播種後40日を経過すると幼穂が形成され、この時期の肥効が品質・収量に大きく影響します。播種1カ月後に即効性の肥料をチッソ成分で3〜5%を目安に追肥してください。

**無徐けつ**  
 早生品種は草丈が低く葉数も少ないので、株元から出る分げつ茎を切り取らずに残すことで葉数を確保し、そこで作られた光合成産物を利用します。根量を多くして倒伏を防ぐとともに、雄花の充実を良くして受粉を助けます。ただし、雌穂が極端に大きい場合は除去しましょう。

**除房(早生品種)**  
 主茎の最上部の房を残し、その下の房は早めに除去します。除房の時期は絹糸抽

**病害虫防除**  
 出初期(ベビーコーン)が適期です。紋枯病は降雨後の高温、すず紋病は低温時の降雨条件下で発病のリスクが高まります。また、台風や強風の倒伏被害により病原菌の侵入が助長されます。倒伏株は無理に起こさず自然回復を待つとともに、降雨後の薬剤散布で防除を行いますよ(表②参照)。

表② 未成熟トウモロコシに登録のある殺虫剤・殺菌剤

薬剤名	適用病害虫	希釈倍率	使用時期	使用回数
トリフミン水和剤	すず紋病	2000 ~ 4000倍	収穫7日前まで	3回以内
リゾレックス水和剤	紋枯病	1500倍	収穫14日前まで	2回以内
スミチオン乳剤	アワノメイガ	1000倍	収穫7日前まで	4回以内
アフーム乳剤	オオタバコガ	1000 ~ 2000倍	収穫3日前まで	2回以内
プレバソフフロアブル5	アワノメイガ	2000倍	収穫前日まで	3回以内
	オオタバコガ			
カスケード乳剤	アワノメイガ	2000 ~ 4000倍	収穫7日前まで	2回以内
	オオタバコガ			
アディオン乳剤	アワノメイガ	2000 ~ 3000倍	収穫14日前まで	4回以内
	アブラムシ類			
ベネビアOD	アワノメイガ	2000 ~ 4000倍	収穫前日まで	3回以内
	オオタバコガ			
	アブラムシ類			

**栽培のポイント**  
 本来夏作物であるキュウリにとって、これからの栽培は時期外れの作となります。その中で最も大切なことは、光合成を最大限に高める管理を行うことです。

**ポイント1**  
 光合成の最適温度20〜25℃まで早く上げるために、日の出前から早朝加温をして光合成を促進させましょう。また、湿度も光合成に影響しており、気温が高いときは湿度が高いほど光合成が盛んになります。日中の湿度を下げ過ぎないように注意しましょう。

**ポイント2**  
 適正な水分管理も重要です。キュウリは浅い土層に根を増やす性質があるので、そこに水を与えないと一気に樹勢が低下します。一度に多く灌水するのではなく、こまめな少量灌水が必要です。

**ポイント3**  
 少ない日射量を最大限に活用するため、こまめに摘葉して

**ウイルス病対策**  
 越冬キュウリにおいて、ミニキイロアザミウマが媒介する「黄化えそ病」や、タバココナジラミが媒介する「退緑黄化病」などのウイルス病被害が散見されます。

これらの病気に有効な治療薬はありませんので、ウイルス病を媒介する害虫を入れない、増やさない、外へ出さないといった対策が必要となります。

**入れない対策**  
 育苗または定植時にベリマワークSCなどの初期防除を行い、ハウス開口部には0.4ミ以下の防虫ネットを展張しましょう。

**増やさない対策**  
 7日間隔で別系統の薬剤によるローテーション散布を行いますよ。また、管理作業での伝染を防ぐために、ハサミの消毒や交換を定期的に行ってください。

**外へ出さない対策**  
 栽培終了後には保毒した害虫を死滅させるために、蒸し込み処理を行いますよ。

**その他病害対策**  
 11月以降は外気温の低下に伴い温度確保のためにハウス内を締め切りすることで、菌核病、うどんこ病、べと病の発生が多くなります。

**菌核病**  
 天窓の開放や日中の暖房機運転による除湿を行い、ハウス内の湿度を下げてください。また、胞子の飛散を防ぐためにも被害果は早期に摘み取るようにしましょう。

**うどんこ病**  
 必要のない下位葉の摘葉を行い、風通しの良い状態にしましょう。葉の表裏に発生するので、薬剤散布は葉の裏にも十分に薬液がかかるよう心掛けてください。

**べと病**  
 排水を良くして過湿条件を避け、発生初期の薬剤散布を行いますよ。

表① 菌核病・うどんこ病・べと病に登録のある薬剤

薬剤名	効果	適用病害名			希釈倍率	使用時期	使用回数
		菌核病	べと病	うどんこ病			
セイビアーフロアブル20	予防	●			1000~1500倍	収穫前日まで	3回以内
ピクシオDF		●			2000倍		4回以内
アフエットフロアブル		●		●	2000倍		3回以内
ベルコートフロアブル		●		●	2000倍		7回以内
トップジンM水和剤		●		●	1500~2000倍		5回以内
プロパティフロアブル	予防・治療			●	3000~4000倍	3回以内	
ショウチノスケフロアブル				●	2000倍	2回以内	
トリフミン水和剤				●	3000~5000倍	5回以内	
プロポーズ顆粒水和剤			●	●	1000~1500倍	3回以内	
ベトファイター顆粒水和剤	予防		●		2000~3000倍	3回以内	
ランマンフロアブル			●		1000~2000倍	4回以内	